

○キタミサウの新産地 (大井次三郎) Jisaburo Ohwi: *Limosella aquatica* L. occurs in Hondo.

キタミサウは南北兩半球の溫帯から亞寒帯にかけて湖畔，河畔，海岸附近等の泥土上に廣く生育する小形の一年草で，日本では初め北海道の北見に知られ，この外に九州（肥後）にも一ヶ所知られているだけであつたが，昭和25年に本州では初めてこれを武藏國，越ヶ谷附近の泥土に見出した。樺太，千島，朝鮮，滿洲，北支那及びシベリアに廣く分布するものであり，見出した場所も，鴨場の附近なので，大陸邊りから水鳥の脚にでもついて渡つた一時的のものかとも思はれたが，場所も可成り廣く，個體もそれ程少數ではなかつた上に26年にも略同様の状態で生育して居るので，初めはやはり水鳥か何かについて本州に渡來したのかも知れないが，同地の生態條件が變らなければ絶えるものではないらしい。

○天然記念物曬稿松の名について (前川文夫) Fumio MAEKAWA: Notes on the name of a famous big pine tree "Sakô-no-Matsu".

愛知縣幡豆郡に天然記念物になつてゐるクロマツの大木に曬稿松というのがある。すぐに讀めない名だがサコウと發音する。三好先生の報告（天然記念物調査報告植物之部 No. 14: 10 (昭和9年)) によると「苧取れる稻藁を樹枝に懸け日に晒して乾かす意なりと云ふ」とあるが，字義は正にそうとれるが，それだけの事でこんな凝つた名をつけたのかと疑問であつた。頃日，柳田國男氏「西はどつち」(昭和25年): 137 及 147 をみて思い當つた。同氏によると茨城から福島へかけて，別に島根，香川，岡山等の諸縣にはなれて蛇をサカオ又はサカブ又は青大將をアオサカブという土地があるという。同時に芝居に小刑部という姫路城の天守の鎮守の姫神の話があるのも關係があらうかという。この松の下にはお宮があるし，この松は枝や幹が特にうねつてゐるから，どちらが主かはむずかしいが，この蛇の古い名サカオに基づいた名を，後に恐らく徳川時代に土地の漢學者がむずかしい宛字をもつたいぶつて宛てたのではないか。もしもそうなら上述の各地域の中間で既にサカオの名を失つた地域に曾つて行はれた名を残した功績は怪我の功名であつた。